

経営比較分析表（令和2年度決算）

山形県 庄内町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	1	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和4年7月31日 庄内町営風力発電所	令和4年7月31日 庄内町営風力発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
東北電力	-		

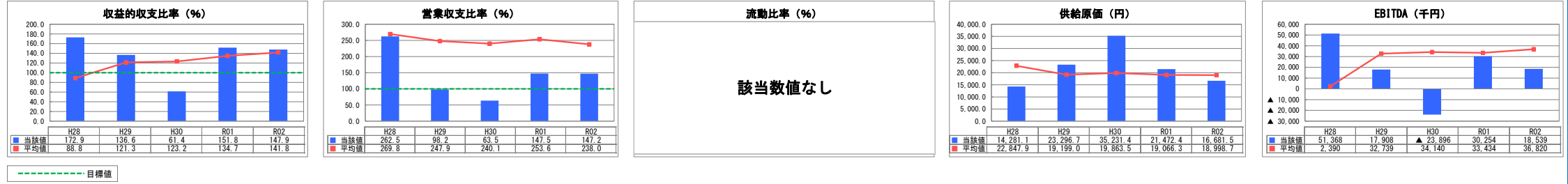
※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H28	H29	H30	R01	R02
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	3,413	2,142	1,793	2,753	2,340
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	3,413	2,142	1,793	2,753	2,340

	F I T以外	F I T	合計
年間電灯電力量収入（千円）	-	44,874	44,874

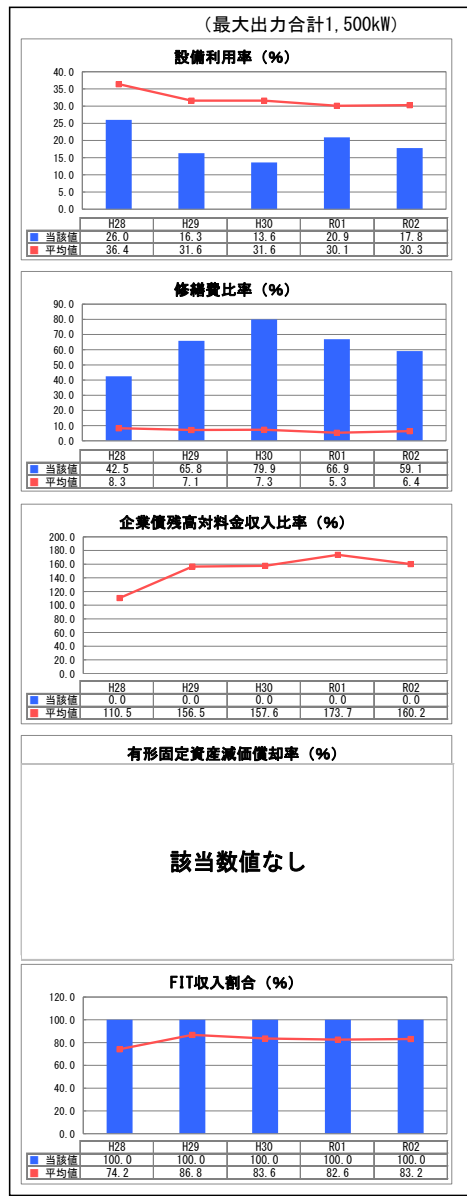
剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）
電気事業により生じた利益は、将来の施設修繕に充てるための風力発電基金に積み立てることを基本としている。固定価格買取制度の適用と保険料収入により、想定以上の金額が積み立てられた。卒FIT後は基金の使途について検討していく。 令和2年度剰余金：7,410千円 基金名：風力発電基金（206,210,795円（R3.3.31現在）） 方針：維持管理費用、撤去費用の他は、検討中。

1. 経営の状況

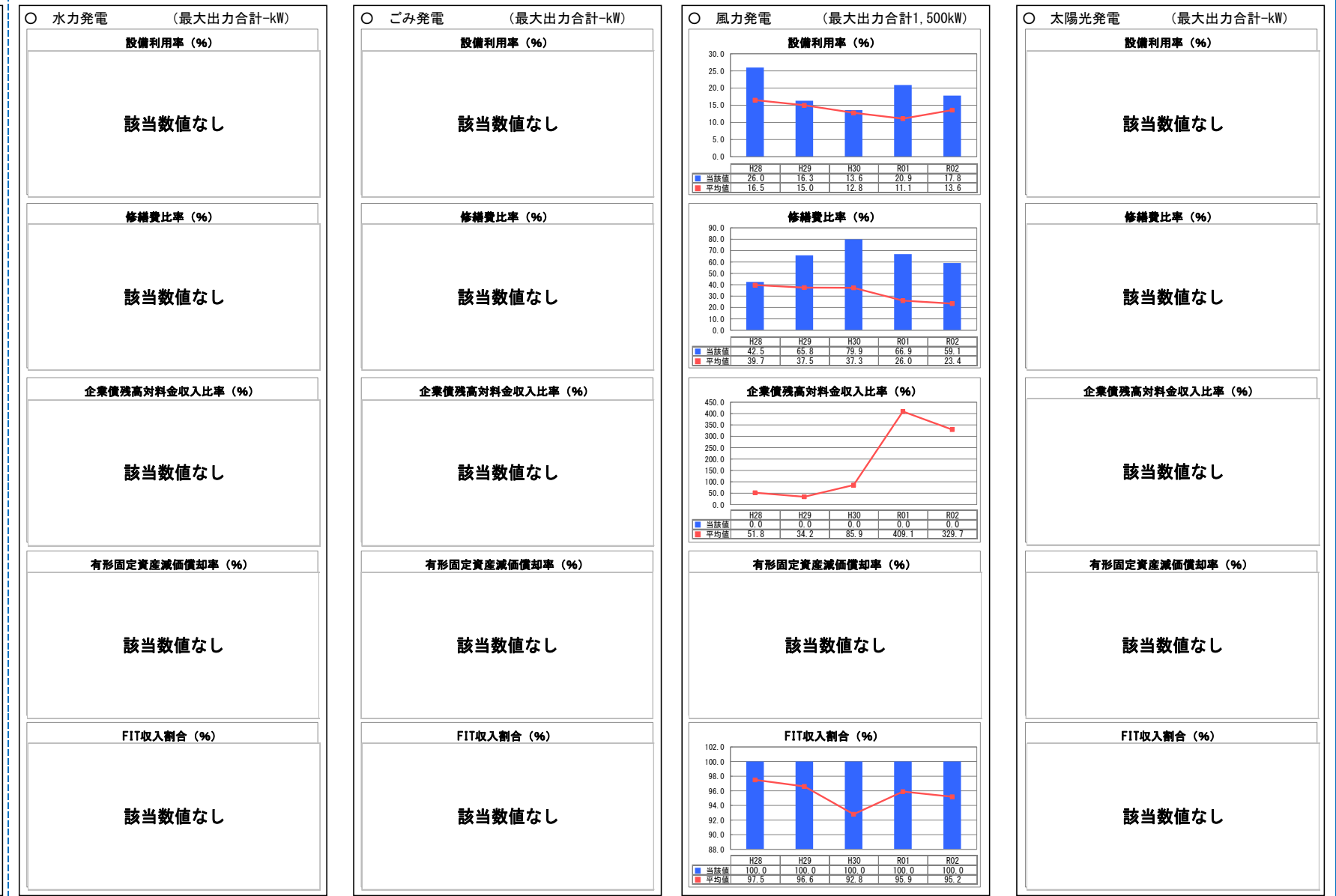


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



※ 平成28年度から令和2年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和2年度の団体数を基に平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の状況について 令和2年度は、収益的収支比率、営業収支比率のいずれも100%を上回っており、単年度では健全な経営が維持できていると判断している。ただし、今後のFIT制度の令和4年7月末の適用の満了や設備機器等の経年劣化による不具合も頻発していることから、それ以後の健全な経営・維持が保てるように収益確保、経費削減に努めていかなければならないと考えている。風況に左右されやすい風力発電設備1基の収益に頼らざるを得ない部分をより効率的な設備、機器等の更新を図ることで補いながら、長期停止となる重大な故障に繋がらないように経営を進めたいと考えている。
2. 経営のリスクについて 修繕費比率が59.1%と依然6割近くを占めていることから故障、修繕に係る経費を最大限に圧縮できるような経営を進める。 自然災害での被害や経年劣化による風力発電の心臓部の設備・機器等の故障によって発電機の稼働停止が長期間となる場合は、経営上の重大なリスクとなる。日常から細かなメンテナンスを進め、重大な故障に繋がらないように設備・機器等の交換に努め、また一方で落雷監視システムの更新など、より落雷発生時で起こる故障の低減に努めることで重大なリスクの回避を図っていく事としている。
全体総括 FIT制度の適用を受け、なおかつ重大な故障での長期的な停止期間がなく、修繕対応に係る経費を低減できれば、安定的で健全な経営が図れる。今後、FIT期限の満了により、経営がより厳しくなっていくことが想定される。これまでの余剰収益の基金積立金の運用を図ることにより、一定の事業継続は行えるものの以後の事業撤退を視野に入れた検討を進めなければならないと考えている。